



# お年寄りに生きがいを

村形 昌一 議員

## 多くの声を拾い上げる

町長

の行為も財産権の課題がある。このまま推移すると5年間で約700〜800人の減少と高齢化が想定される。これらのことから、少子化対策と就労の場の確保等の施策が必要だ。

民間で売買にならない物件は町で整備して定住対策等につなげるべき増加する空き家に対し、町として何もしていないのか、町長 町が整備しているのかを含めて考える。

総務省等で実施している過疎対策や地域振興を積極的に導入したらどうか。町長 いろんな形で取り組み、明るい大石田になるように頑張る。

緑のふるさと協力隊員を導入したらどうか。町長 他市町村の状況を見ながら検討する。

### 過疎化の状況

人口の状況と予測・対策は、町長 町が誕生した昭和30年の1万5126人から減少の一途で、近年は社会減少より出生者が死



全町民が生きがいを持てるように

### 集落の高齢化

5年前に質問した時は4集落が<sup>※1</sup>準限界集落だったが現在の<sup>※2</sup>限界集落・準限界集落の状況はどうか。

町長 今年3月末では準限界集落が21という状況だ。今後も増える事が想定される。

もっと地区の行事を奨励すべきではないのか。町長 町づくり座談会の中で話をしていく。

参加者が減少している各

### 空き家の整備

種大会に景品をつけて参加を促したらどうか。町長 これから色々と検討する。

こちら5年前に提言したが何ら対策もなく物件の状態も悪化する一方だ。現在の空き家の状況は、町長 全体で130戸あり住宅が90戸、その他店舗等が40戸。喫緊の課題としては冬期間の雪による倒壊や通学路への屋根からの落雪等、危険回避をどう行つかで、解体等

「大石田町と尾花沢市との事務委託に関する規約」に基づき整備する必要がある。耐震診断を実施し改修工事も視野に入れて検討する。

### まめ知識

- ※1 準限界集落 55歳以上の人口比率が50%を超えている集落。
- ※2 限界集落 65歳以上の人口比率が50%を超えている集落。
- ※3 緑のふるさと協力隊員 やる気のある若者が農山村を舞台に交流を重ね、1年間地域に密着したさまざまな活動に取り組む。県内では酒田市、尾花沢市、大江町、朝日町、舟形町、小国町、飯豊町等で受け入れている。



土側溝のままの町道小菅田沢線

### 町道整備は計画的に進めよ

議会が請願が採択されても整備が進まない。町道小菅田沢線、大浦2号線の整備をどのように進めようとしているのか。町長 緊急性・必要性を総合的に評価し進めている。町道小菅田沢線の整備は計画には計上されていないが、検討していく。振興実施計画で大浦2号線の整備は平成28年度に計上しているが、その年度に事業を実施するかは未定だ。

### 空き家管理条例の制定を

全国的に空き家については問題視されている。このたびの豪雪で倒壊した空き家が野ざらしになっているが、空き家管理条例を制定し指導していくべきではないか。町長 空き家は町内に130戸あり年々増えている。管理条例制定は法的な規制力がないので難しい現状だ。危険な状況に及んでいる建物もあることから、制定した先例を参考にしながら総合的な対策を検討していく。

# 「複合施設」の早期建設を

関 幸悦 議員

## 検討委員会を今年度中に立ち上げたい

町長

### 施設の耐震化は

昨年の東日本大震災から一年経過し、頻りに全国各地で余震が発生している。町の公共施設を避難場所として指定しているが耐震状況は、特に老朽化が進んでいる福祉会館・並びに大石田消防分署は大丈夫か。

町長 福祉会館は築40年以上が経過しており、耐震診断の必要がある。「複合施設」建設の必要性も認識している。消防分署は築37年経過しており



改築が望まれる福祉会館

